

信頼度 NO.1のがん実用誌!

がんサポート

肺がん&中皮腫特集

1

1冊1,200円
定価1,200円

肺がんの基礎知識

肺がん個別化治療の幕開け

QOLを重視した高齢者への治療

肺がんの最新化学療法

悪性胸膜中皮腫の最新検査&治療

向井亜紀さん・どん底からの脱出記

リンパ浮腫を防ぐ手術

全摘しても乳房は取り戻せる

先端医療の現場

病理医が患者の前で説明する



ちよつと一休み

春風亭 柳桜

(落語家)



「不死身の落語家 笑いがお薬」
春風亭 柳桜 著
うなぎ書房 1,890円(税込)

私にとっては本も同じ位置になる。

時代に流されず、読者におもねず変なてらいをねらわず、自分の感じたこと、思ったことを確実に表現し、伝える。それが私にとっての「本」なのだ。

ニセ者の多い今の世の中で、本物を見きわめる目を、感覚を皆さんに養っていただきたい。そうしなければ我々「プロの噺家」も日本の歌謡界同様に斜陽の世界に入ってしまうからだ。

読者のみなさん、そしてサポーターするみなさん、明日読んでいただきたい、あるいはもう1度読み直していただきたい本を紹介させていただけようと思う。ただ、最初にことわっておく。「私は欲張りだ。1冊では終わらない」ということを。

まずは軽く、『シートン動物記』(アーネスト・トンソン・シートン著)。そして壇一雄の『火宅の人』。そしてもう1度考えてみたい、深沢七郎の『楯山節考』。最後に『命の初夜』(北条民雄著)だ。

こうして原稿を書いていても思わず涙が出てくる……そんな作品達だ。読め!! そして生き

ろ!! 迷うな!! 君の人生は間違っていない。そのまま行けばいいのだ。

多分? これだけ書いてもまだ1200字にはならない。このままでは今月の「がんサポーター」のこのページは余白だらけになってしまう……。

仕方がない。こうなれば、私もプロだ。手段を選ばない。とっておきの1冊を紹介しよう。それはある無名の噺家の書いた本『不死身の落語家』である。(私の本です)

なぜ自分の本を紹介するのか? って、それは私が書かなければ誰も私の存在も、本の存在も知らないからだ。

深い深い森の奥で木が倒れた。誰の耳にも届かない、誰の目にも止まらない。しかし木は倒れたのだ……。

近頃、歌謡番組が下火だ。私の青春時代は、どこのテレビ局でも1つや2つ歌謡番組を持っていたものだ。

「歌は世につれ世は歌につれ、皆様、お待たせいたしました」と私たち視聴者を夢の世界へと連れて行ってくれた。それがなぜこんな斜陽業界になってしまったのだろうか?

10月4日、柳好さんと月を見ながら酒を飲んだ。柳好さんが私に聞いた。

「兄さん、どうやって若い者に和音を教えたらいいんですかねえ……ドレミじゃ落語はできませんよ」

「美空ひばりさんのお祭りマンボを歌わせる。ひばりさんはドレミじゃ歌ってない。それをタキ込め!!」それが私の答えだった。

「歌は世に連れ、世は歌に連れ」。それは歌の世界だから許される。我々落語界、とくに古典といわれる噺の世界では、世に連れたり、客にコビたりはできないのだ。

たとえ世に受け入れられなくとも、時代に合わなくとも、先人達が磨き上げ、継承してきた噺を汚すことなく伝承し、後世へ伝えていかなければならない。それが「プロ」の噺家なのだ。

しゅんぶうていりゅうおう
1952年東京都生まれ。1979年に春風亭柳昇に入門し春風亭柳太郎で初高座。1993年、春風亭柳桜で真打昇進。20歳の頃から原因不明の難病、ピュルガー病を患い、両足を切断、義足を装着してリハビリに励み、ハンディを克服して高座に復帰。古典落語を中心に、軽快かつ悠々とした高座を演じる